



基本的な信頼関係をつくる

部長代理 勝木 茂

子どもたちの元気な声が校舎のあちらこちらから聞こえ、また、いつもの初等部となりました。

わたしは、子どもたちの声が少ない夏休みの学校も嫌いではありませんが、たくさん子どもたちの声が聞こえるいつもの学校が好きです。夏休み期間中、子どもたちは、普段の初等部の生活では得ることのできない様々な体験を通して、大きく成長したことと思います。

さあ、今日から新学期、授業再開です。

今日より授業は、はじまりましたが、まだまだ暑い日が続きそうです。子どもたちの健康と安全に十分配慮しながら、徐々に子どもたちの学習や生活のリズムを日常に戻していきたいと思っています。ご家庭においても、子どもたちの健康観察を十分にいただき、毎朝、元気な状態で初等部に来ることができるようお願いいたします。

さて、以前わたしが夏休み期間中に旅行に行った時の出来事です。宿泊施設のお風呂に入っていると、就学前くらいの女の子とおとうさんが入ってきました。近くで洗髪していたわたしにおとうさんのやさしい声が聞こえてきました。「○○ちゃん、もう、シャワー自分ひとりですることができるようになったんだ、すごいね」「じゃあ、タオルで体洗ってみようか」「そうそう、タオルの端っこを右手で持って耳の下、左手でもうひとつの端っこを持ってみて」「そうだね。むずかしいよね。ここをこの手で持ってみて、そうそう、それで良いんだよ、できたね」「じゃあ、ゆっくりゴシゴシしてみて、そうそう○○ちゃんの背中きれいになっていくね」「じゃあ、ちょっと難しいよ、タオルを持ったまま左手を反対の耳のところにもってきてみて、そうそう1回手を離さないといけないんだよ、それでいいよ、できたね」「じゃあ、反対の手も1回離してみて、そうそうできるようになったね」・・・

洗髪中だったわたしは、そちらを見ていませんし、はっきりとも聞こえてきませんでした。

たが、女の子とおとうさんの信頼関係を認めるには十分すぎる会話でした。



幼児は、大人との基本的な信頼感をよりどころに、身近な人や周囲の物、自然などの環境とかかわり、興味・関心の対象を広げ、認識力や社会性を発達させていくとともに、食事や排泄、睡眠といった基本的な生活習慣を獲得していく。（下線部分＝文部科学省「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題（1）乳幼児期」より引用）

一般的に幼児期は、大人との信頼関係を基に少しずつできることなどが増え、自分の価値を自覚しながら自分への自信が芽生えてくると言われています。そして、学童期に入り様々な能力が発達し、それを信頼している大人から認められることにより徐々に自尊感情が育っていきます。よりよい自尊感情は、自ら多少困難なことにチャレンジしたり、主体的に学んだりしようとする意欲につながっていきます。

つまり、わたしたち大人は、子どもと常に基本的な信頼関係をしっかりと構築しておくことが、子どもの発達の過程において不可欠であるということです。お風呂での心があたたまる会話を聞き、やはり日常より信頼関係を結びながら、具体的に「褒める、認める」ことが子どものよりよい発達に大切だということに改めて感じました。

今学期も、子どもたちとの信頼関係を大切に、日々の一時間一時間の授業を大切にしていきたいと考えます。引き続きのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。